

第Ⅳ章 奥沢水源地 保存・活用の基本構想

1. 基本テーマ

「奥沢水源地」の現況及び課題を踏まえ、「奥沢水源地」の歴史的資産を最大限に活用するとともに、周辺の自然景観、環境との調和を目的に、「奥沢水源地」の保存・活用の基本テーマを次のように定めます。

・基本テーマ

歴史と自然の調和による 市民が憩える親水空間の創出

～先人の知恵に学び、小樽の水の歴史を伝承します～

奥沢水源地は、明治、大正時代の土木技術を結集し、北海道で最初の水道専用ダムを持つ小樽水道のはじまりとなる施設（創設水道施設）です。

奥沢水源地内の水道施設は、取水から浄水までの水道水を作るしくみが創設当時の姿で残り、約 100 年にわたって生活、衛生、防災、経済の分野で小樽市の発展を支えてきました。

また、奥沢水源地が織りなす風景は、創設当時の小樽の原風景を残し、階段式溢流路^{いつりゅうろ}の「水すだれ」や四季折々の景色などが市民に親しまれてきました。

奥沢水源地の保存・活用では、先人たちが遺した歴史的資産と良好な自然景観を調和させ、市民とともに後世に伝承していきます。

2. 基本方針

基本テーマである「歴史と自然の調和による市民が憩える親水空間の創出」を実現するため、歴史的価値と自然景観の調和を方針の核にして、利用者が「奥沢水源地」で水と親しみながら憩える空間となるよう、以下の3つを基本方針とします。

方針 1 歴史的資産を生かして、水道水を作るしくみを伝える場とします

- 歴史的価値のある水道施設を活用し、「水道水を作るしくみ」を広く市民に伝えます
- 明治、大正時代の土木技術が結集した水道施設を後世に伝える場とします
- 水面の痕跡を活用し、「水の面影」をイメージとして演出します

方針 2 自然景観を生かして、風景を楽しむ場とします

- 水すだれの景色など、自然景観をゆったりと楽しむ場とします
- 歴史的資産と自然景観が調和した心に残るような風景を創出し、四季が織りなす彩りを楽しむ場とします
- 森や水にふれることで自然との共生を学ぶなど、環境教育の場として活用します

方針 3 水と親しむ市民の憩いの場とします

- 来訪者が安心して安全に散策できる公園緑地とします
- 川の流れる水の音が聞こえるなど、周囲の自然と調和させながら、安らぎ憩うことのできる親水空間とします

3. 機能と活動メニュー

「奥沢水源地」へ導入する新たな機能として「学習」、「憩い」、「交流」、「周遊」、「保全」の5つを設定します。また、それぞれの活動メニューは、以下のように考えています。

学習：水づくりの歴史、自然環境との共生 など

憩い：くつろぐ、風景、花見、紅葉 など

交流：水あそび、ピクニック、森あそび など

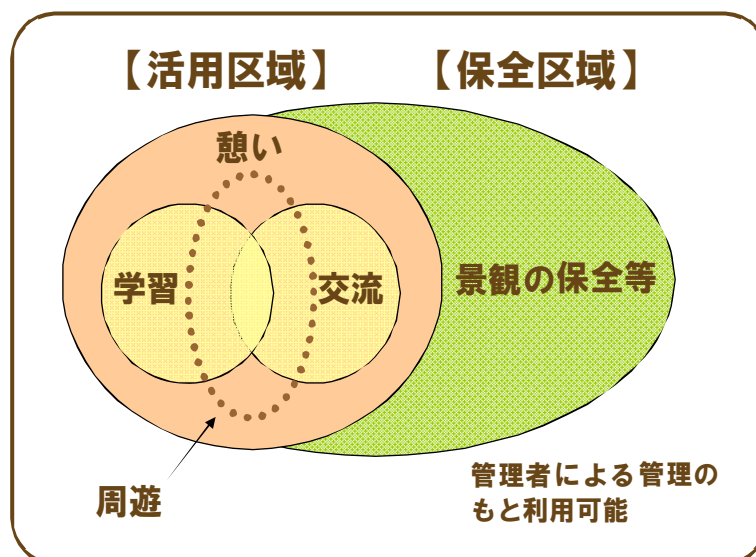
周遊：散策、ノルディックウォーキング、ジョギング など

保全：景観維持、水道施設として利用 など

4. ゾーニング

(1) ゾーニングの考え方

「奥沢水源地」の特性を踏まえ、必要となる機能をモデル化すると、人の立ち入りを前提とした「活用区域」と自然景観の保全等を目的として立ち入りに制限を設ける「保全区域」に分けられます。

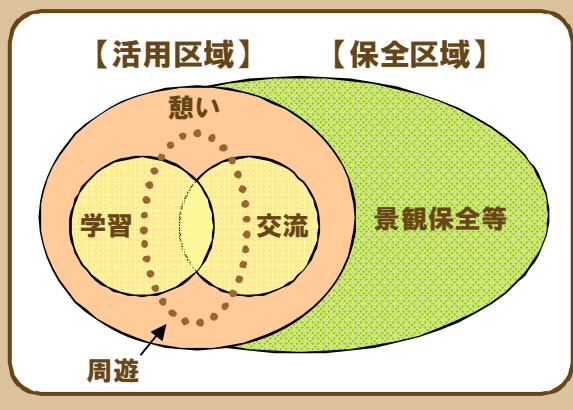


《奥沢水源地のゾーニングイメージ》

基本テーマの「歴史と自然の調和による市民が憩える親水空間の創出」を実現するためにゾーニングを定めます。なお、市民への早期供用を目指し、短期計画を設定します。

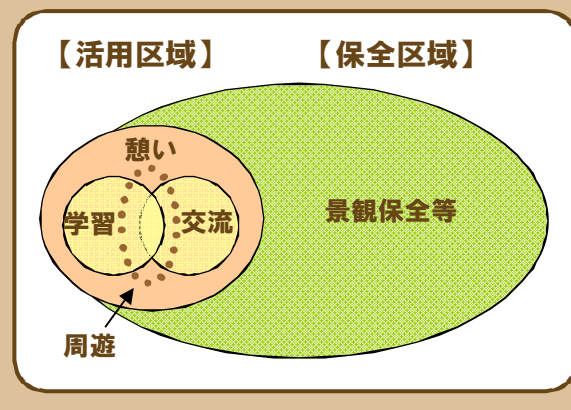
基本構想(中・長期計画)

- 水源地内の歴史的資産と自然景観、環境との調和を図りながら、安全に活用できるゾーニング設定とします。



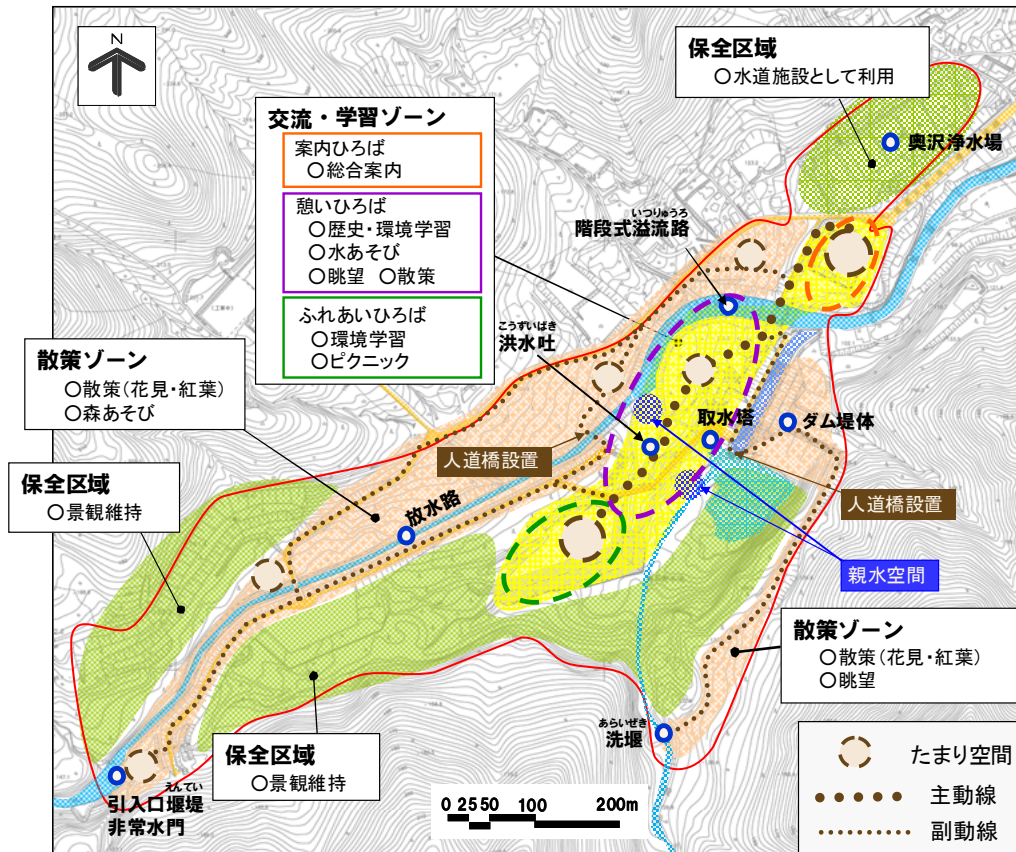
短期計画

- 既存の施設を最大限に生かし、市民への早期供用を目指したゾーニング設定とします。

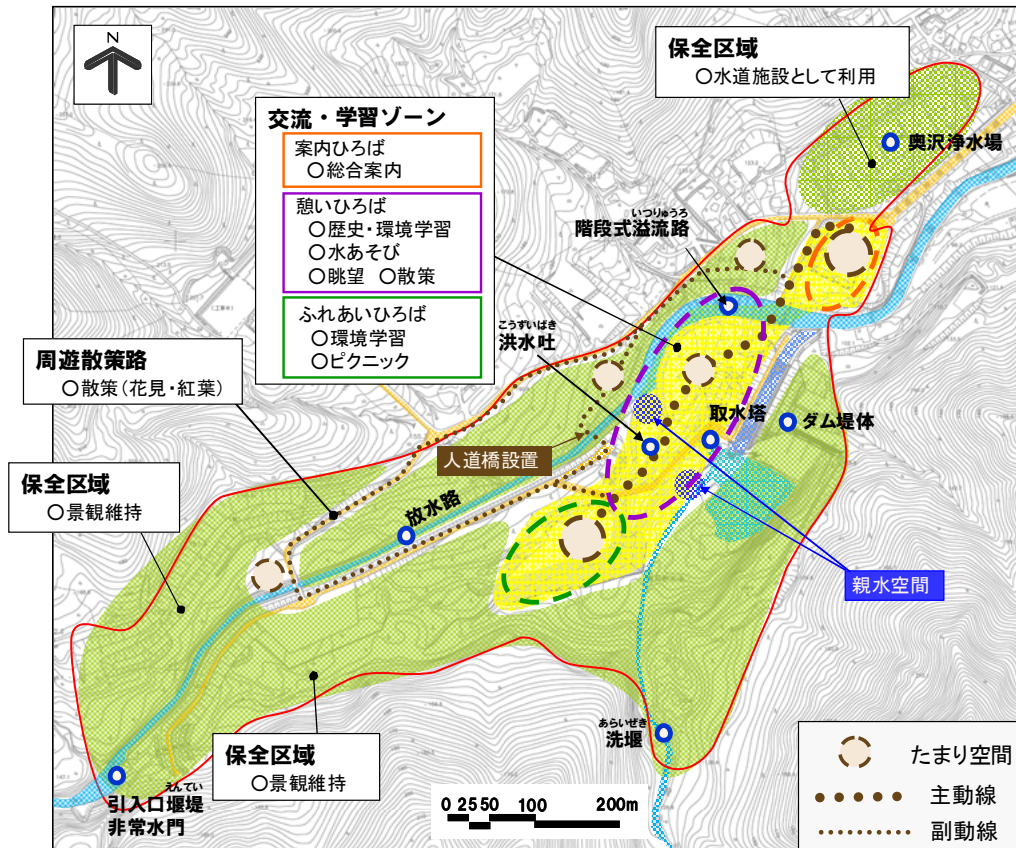


(2) ゾーニング

■基本構想(中・長期計画)



■短期計画



5. 主な活動メニューの方向性

基本テーマである「歴史と自然の調和による市民が憩える親水空間の創出」の実現を目指した主な活動メニューの考え方を次に整理します。

「奥沢水源地」で保存・活用を進めていくうえでは、基本方針で示されている“歴史的資産を生かして、水道水を作るしくみを伝える場”“自然景観を生かして、風景を楽しむ場”“水と親しむ市民の憩いの場”を踏まえた活動メニューとすることが重要になります。この3つの方針は、それぞれ独立しても基本テーマの実現に寄与しますが、活動メニューにより導入される機能（学習、憩い、交流、周遊、保全）をつなぎ合わせることで、より魅力的な保存・活用が可能となります。

① 総合案内

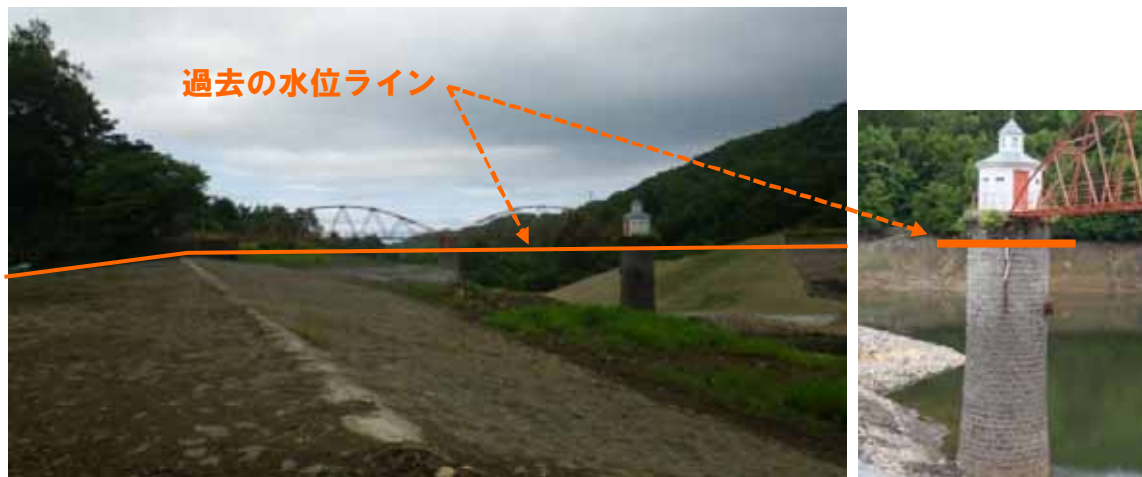
水源地の表玄関として、訪れる人に水道施設の歴史などを、模型、パネルや博物館との連携などにより情報提供をします。



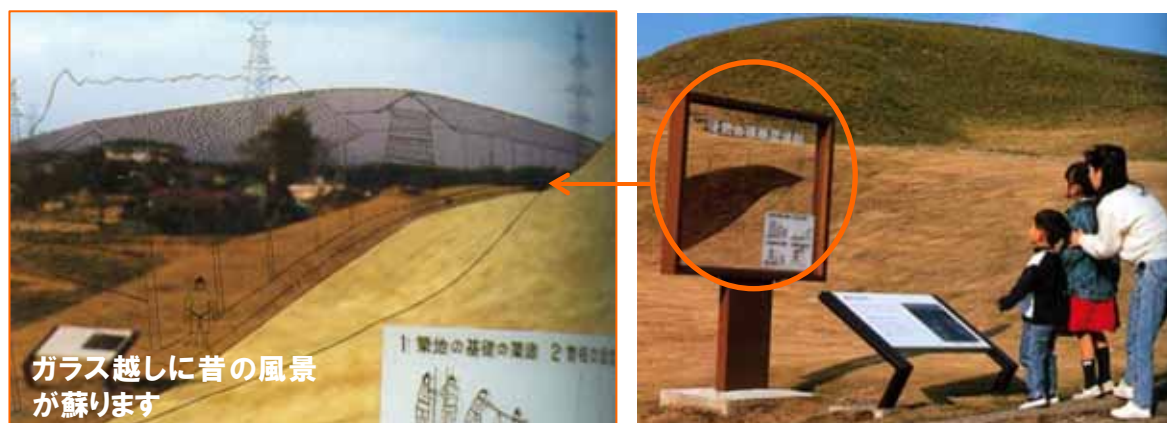
《総合案内板のイメージ》

② 歴史学習

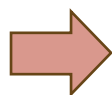
小樽水道のはじまりとなる施設（創設水道施設）を安全に見学するとともに、案内板や IT 技術などを利用して、散策や休憩をしながら水道の歴史を学べる場とします。



《水の面影イメージ》



《ガラス案内板を活用した面影情報（宮城県大崎市）》



景色など、特定の場所でカメラをかざすと周辺情報や写真が表示

《スマートフォンの利用イメージ》

③ 環境学習

市民の手で木、森、花を育て、水辺の環境に触れるなど、自然の大切さ、自然との共生を学べる場とします。



《植樹のイメージ》

④ 水あそび

地形を生かした水辺を残し、子供たちが安全に水と親しむ場とします。



《親水空間のイメージ》

⑤ 散策

水すだれの景色や桜、紅葉などの水源地の風景を楽しみ、こもれびを浴びながら散策を楽しむ場とします。



《散策路のイメージ》



《人道橋のイメージ》



《たまり空間の休憩施設のイメージ》



《たまり空間のトイレと水飲み施設のイメージ》

⑥ 眺望

「奥沢水源地」の旧貯水池が一望できるダム堤体の上などから、ランドマークとなる取水塔とともに山々の移り変わる四季の風景を楽しむ場とします。



《堤体からの眺めと案内板のイメージ》

⑦ ピクニック

豊かな自然のなかで、家族や仲間たちと食事などを楽しみながらゆっくりとすごす場とします。



《芝生広場のイメージ（神戸市高塚公園）》

⑧ 森あそび

森の中で木のぬくもりを感じながら、どんぐりひろいや虫とりなどを楽しめる場とします。



《森あそびのイメージ》

⑨ 景観維持

奥沢の景観を後世に伝えるため、可能な限り手を加えない形で自然を保全します。



《水源地の風景》

6. 保存・活用のイメージ図

